

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者氏名：R・N 様 （80代・女性 難病・要介護3）
利用期間：平成26年11月～現在
既往歴：高血圧・右大腿骨頸部骨折術後・右膝関節骨折・第12胸椎圧迫骨折・腰部脊柱管狭窄症・変形性膝関節症・パーキンソン病
経過：平成26年8月下旬に自宅マンションの階段昇降時に転倒、救急搬送後、第12胸椎圧迫骨折と診断される。急性期治療後、リハビリ目的で転入院を経て、11月中旬にご本人様の強い希望によりご自宅に退院となる。
けやきでは、通所リハビリから利用開始し、本人様の要望をかなえるため、自宅環境で訪問看護・リハビリを実施。

内 容

今回の入院前から転倒等で入退院を何度も繰り返し、「体力や筋力も低下し、一人の生活が不安にある。施設入所は迷ってはいるけれども、できれば環境を整えて自宅で暮らして行きたい」と言う本人様の意向を踏まえ、ケアセンターけやきの介入となる。通所リハビリテーション利用開始時には胸椎圧迫骨折起因による腰部痛が強く、歩行も自宅内を何とか伝え歩きで行い、座位保持15分以上は痛みにより、ベッド上での生活が主体となっている状態でした。そのような状態を踏まえ、まずは圧迫骨折による痛みを緩和しながらでも日常生活を送れるように目標設定を行い、運動療法等を実施することで、徐々に改善の方向に向かう。身体の状態が良くなることで、生活に対する要望も具体化できるようになり、本人様の一番の楽しみである、「東武デパートへ買い物に行きたい」という要望も聞かれ、そのためには実際の生活場面での練習が必要と考え、通所リハビリに通いながら、スポット的に訪問看護・リハビリを併用を開始。マンションの階段で2度転倒してしまった経緯もあり、訪問スタッフが現時点での住居では再度転倒の危険性があると判断し、本人様と家族様と検討した結果、転居をするを選択。しかし、転居先でもどうしても危険な場面（マンション前の階段を下りて、踏切を渡り、タクシーに乗る必要性）はありましたが、「デパートに行きたい」という目標を達成するために、本人様と一緒に、ひとつひとつ課題を挙げては解決していくことで、自信もつき、今では一人で池袋までタクシーに乗り、買い物に行けるようになる。最初に東武デパートへ行けた際にはご本人様から「本当に嬉しくて、嬉しさのあまり、食料品や家族への洋服を買って20万円ぐらい使ってしまったのよ」と笑顔でセラピストにお話しをして頂いた。

当初は施設入所まで検討されていたN様が、けやきの通所リハビリと訪問看護（リハビリ）の介入を通じて、生活に必要な課題を解決し、出来る事が増え、デパートへ行かれる等、楽しく生活をされている事はキラキラ介護賞に値する症例として報告をさせていただきます。